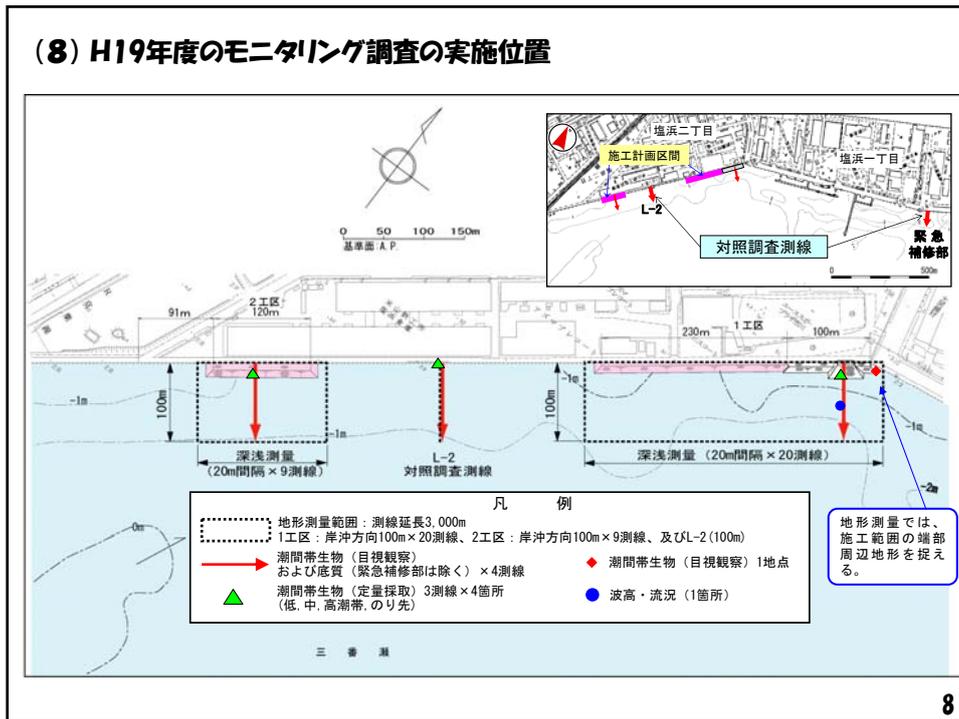


### (8) H19年度のモニタリング調査の実施位置



### (9) H19年度 春のモニタリング調査の内容

区分	項目	目的	方法	調査時期	数量等
検証項目	地形	・護岸部の張り出しによる周辺への物理的影響の把握 ・洗掘等による周辺地形の変化の把握等	・地形測量	H19年4月2日～4月4日	・1工区：岸沖方向100m×22測線 +1丁目側端部25m×1測線 = 測線延長2,225m ・2工区：岸沖方向100m×13測線 = 測線延長1,300m ・L-2対照調査：岸沖方向100m×1測線 ※施工範囲の端部周辺地形を捉えるため、施工範囲の両側に測線を追加した。
	底質	・粒径の変化の把握	採泥 ・粒度試験	H19年4月17日	・潮間帯生物（目視観察）調査の3測線で10m間隔で採泥（11検体、緊急補修部は除く）：合計33検体
	生物	・潮間帯生物の定着状況 ※調査は公開で実施した。	ライントランセクト法による観察  採取分析	H19年4月17日 (施工後8ヶ月)	・1及び2工区の中央部に1測線、対照区として測線L-2の1測線(100m)及び塩浜1丁目の緊急補修部の計4測線 ・石積護岸(斜面上)：方形枠(50cm×50cm)による連続目視観察 ・2工区及びL-2はのり先から離岸距離10mまで1m間隔 ・のり先から離岸距離10～100mは10m間隔 ・第1工区の東側端部の1地点においても観察  ・1工区、L-2、2工区の3箇所における採取分析4検体 ・1箇所当り高、中、低潮帯、のり先の4検体
基礎情報	外力(波浪・流況)	・波高・波向の計測 ・流れの計測 (海底面上約1m)	波高・流速計の設置	H19年3月1日～5月1日	・1工区の護岸前面の1箇所(61日連続観測)
	インパクト	・青潮時の溶存酸素量測定(生物環境への影響把握)	DO計による測定	H19年5月中旬より、青潮発生時及び工事期間中、1週間に1回計測	・1工区の完成断面面積のり先。未施工区間の直立護岸前面

